

## 製品名: MRTF-A ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab14163

研究使用のみ

### 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

### 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	99kDa

### 抗原情報

遺伝子名	MKL1
別名	MKL1; KIAA1438; MAL; MKL/myocardin-like protein 1; Megakaryoblastic leukemia 1 protein; Megakaryocytic acute leukemia protein; Myocardin-related transcription factor A; MRTF-A
遺伝子 ID	57591.0
SwissProt ID	Q969V6
免疫原	抗血清はヒト MKL1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

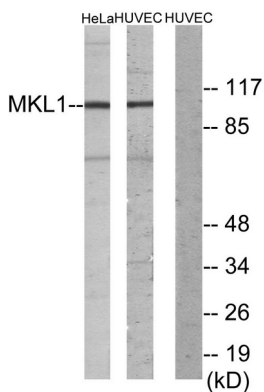
### 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、平滑筋細胞の分化を調節する重要な因子である転写因子ミオカルディンと相互作用

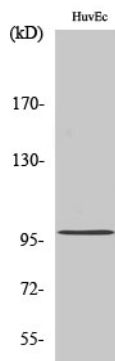
する。コードされるタンパク質は主に核内に存在し、細胞骨格から核へのシグナル伝達を補助すると考えられる。この遺伝子は、特定の転座イベントに関与しており、この転座により RNA 結合モチーフタンパク質 15 遺伝子との融合が生じる。この転座は急性巨核球性白血病と関連している。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2013 年 9 月]、疾患：MKL1 に関連する染色体異常が、急性巨核芽球性白血病の原因となる可能性がある。転座 t(1;22)(p13;q13) と RBM15。急性巨核芽球性白血病 (AMKL、FAB-M7) では、両方の相互融合転写産物が検出されますが、RBM15-MKL1 キメラタンパク質は、各遺伝子によってコードされる推定上の機能ドメインをすべて有しており、候補癌遺伝子です。ドメイン：N 末端領域は核局在に必要であり、C 末端領域は転写活性を媒介します。機能：標準的な単一または複数の CArG ボックス DNA 配列を使用する転写因子。血清応答因子 (SRF) の補因子として作用し、SRF 標的遺伝子を調節する可能性があります。カスパーゼの活性化を阻害することにより、TNF 誘導性細胞死を抑制します。その転写活性は、抗アポトーシス機能に不可欠です。抗アポトーシス分子の発現を上昇させ、その結果カスパーゼの活性化を阻害する可能性がある。類似性：SAP ドメインを 1 つ含む。類似性：RPEL リピートを 2 つ含む。サブユニット：DNA 上で SRF と三元複合体を形成する。MKL2 と相互作用する。組織特異性：普遍的に発現しており、肺、胎盤、小腸、肝臓、腎臓、脾臓、胸腺、結腸、筋肉、心臓、脳で検出されている。

## 研究分野

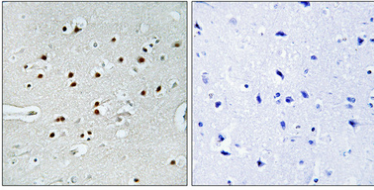
## 画像データ



MKL1 抗体を用いた HUVEC および HeLa 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MRTF-A ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。